**Frogs**

**Otton frog / *Babina subaspera* / Otton-gaeru / オットンガエル**
奄美大島と加計呂麻島のみに生息する大型カエルの固有種。雌は雄より大きいが、共に同じ色彩で背中には薄茶の斑紋があり、白い腹部と茶色い縞が後肢にある。主に森の中の渓流付近におり、昆虫やカタツムリを食べる。通常のカエルは前脚に通常4本の指を持つが、オットンガエルは珍しい5本の指。指には鋭く尖った爪を隠しもち、雄が交尾の際に雌に捕まるため、よく傷跡を残す。また、雄は他の雄へ爪で攻撃することもあり、時々交尾中の相手への攻撃も観察されている。県の天然記念物とされ、森林伐採と外来種のマングースにより数が減り、絶滅危惧種と指定されていたが、近年数が増えている様子。名前の由来は奄美の方言で「大きい」という意味。

**Amami Ishikawa frog / *Odorrana splendida* / Amami Ishikawa-gaeru / アマミイシカワガエル**
鮮やかな色彩を持つ体調9～12cmの珍しいカエルは日本一美しいカエルとされ、鮮やかな黄緑色の体に金と紫の斑点がでこぼこした背中や頭、脚にある。以前は沖縄本土のイシカワガエルと同類と思われていたが、200万年以上前に分岐したとされ、今では奄美大島のみで見られる。森の中の渓流付近に生息するが、つま先の吸盤を使い、木を登ることができる。昆虫、カタツムリやミミズを食し、森の源流の岩の隙間や地中に卵を産み、繁殖する。オタマジャクシである幼生期は2年ほど過ごし、孵化した場所から90mも移動することができる。アマミイシカワガエルは今絶滅危惧種と指定されており、県の天然記念物でもある。